

令和3年度

決算

特別号

広報

このまちを、もっと好きになる

ふくちやま

Fukuchiyama City Public Relations

令和3年度の
決算をお知らせ
します!

この風景を、未来につなぐ。

P.4-5 コロナ禍への対策を確実にとりながら
未来に向けた取り組みを展開

P.6-7 再エネ・省エネ化で環境にやさしいまちづくり
誰一人取り残さないスマートシティをめざして

P.8-9 住みたいまちをつなぐため“今”をより良くする挑戦

写真:大江山の雲海 (2021年11月29日撮影)



コロナ禍への対策と
しなやかで強靱な
まちづくりをめざして

本市の令和3年度当初予算
では、「しなやかで強靱なま
ちづくり」をめざし、一般会
計で401億円の予算を編成
しました。

「新型コロナウイルス感染
症対策」に加え、「ゼロカー
ボンシティ・再エネ100へ
の挑戦」、「スマートシティ
の実現」を重点テーマに、挑
戦心に溢れる新規・拡充事業
と継続事業にバランスよく取
り組みました。

13回もの追加・補正予算で
コロナ禍に柔軟に対応

今もなお続く新型コロナウイルス感染症に対しては、市民の皆さんの健康と安全、地域経済や雇用、市民生活を守るため、一般会計では13回もの補正予算を編成し、感染防止対策と経済対策を臨機応変に実施しました。

黒字を確保し
健全な財政を堅持

本市は、平成28年度から令和2年度にかけて、第6次行政改革と財政構造健全化指針（平成30年度～令和2年度）に基づいて、財政の健全化に取り組み、第6次行政改革で掲げた財政指標の目標を全て達成しました。また、令和3年度決算では、コロナ禍へ確実に対応しながらも約10億円の黒字を確保しました。

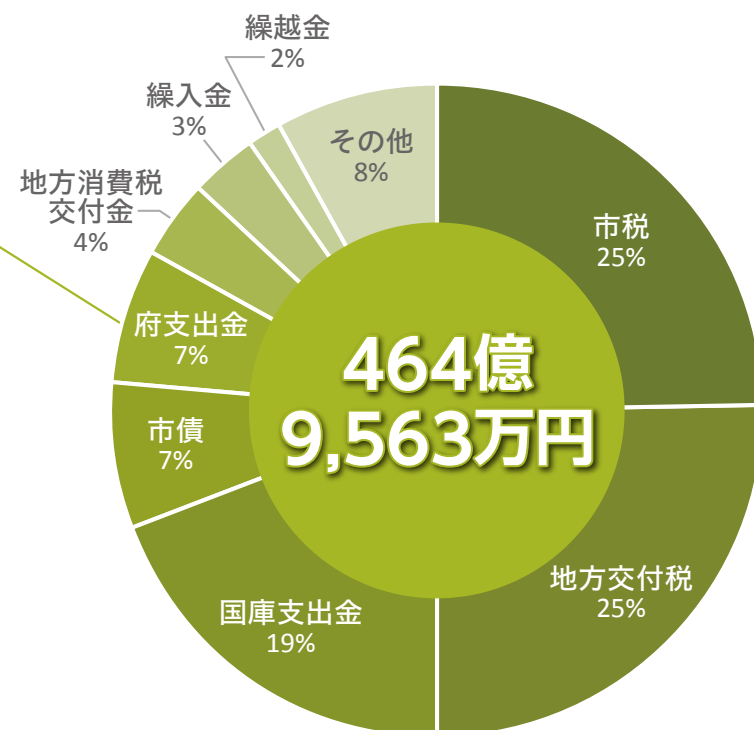
しかし、この先、人口の減少が予測される中で税収の縮小、新型コロナウイルスのような感染症や全国で頻発する災害など、様々な財政的リスクが本市を取り巻いていま

す。
そこで本市では、今年3月に「福知山市持続可能な財政運営の基本方針（令和4年度～令和8年度）」を策定しました。持続可能な未来を次の世代に残していくために、今後も健全な財政の堅持に取り組んでいきます。

※12ページでは、単年度収支、経常収支比率、財政健全化判断比率についてより詳細にお知らせしています。

コロナ禍にあっても 危機に対応しながら健全財政を堅持

歳入



※端数処理のため合計が合わない場合があります。

【用語解説】

市税：皆さんが福知山市に納めた税金です。

地方交付税：皆さんが国に納めたお金の一部です。地方公共団体の財政状況に応じて国から配分されます。

国庫支出金：皆さんが国に納めたお金の一部です。特定の目的を達成するために国から市へ交付されます。

市債：事業を行うために国や銀行などから借り入れたお金です。府支出金：皆さんが府などに納めたお金の一部です。特定の目的を達成するために府から市へ交付されます。

地方消費税交付金：皆さんが納めた地方消費税の一部です。人口などに応じて府から市へ交付されます。

繰入金：各種基金（貯金）から一般会計へ繰り入れたお金です。繰越金：令和2年度から繰り越されたお金です。

【用語解説】

民生費：高齢者や障害のある人の福祉、子育て支援のための経費

総務費：情報システム、徴税、選挙、財務事務などの経費

公債費：建設事業などを行うために借り入れたお金を返済するための経費

衛生費：健康で衛生的な生活環境を保つための経費

教育費：学校教育や生涯学習の充実、スポーツなどの振興のための経費

土木費：道路、橋、河川、公園の整備、維持管理などまちづくりのための経費

農林業費：農林業などの振興のための経費

消防費：市民の安全を守る消防・防災活動のための経費

商工費：商工業などの振興のための経費

市が令和3年度に使ったお金（歳出）を
市民一人あたりに換算すると…

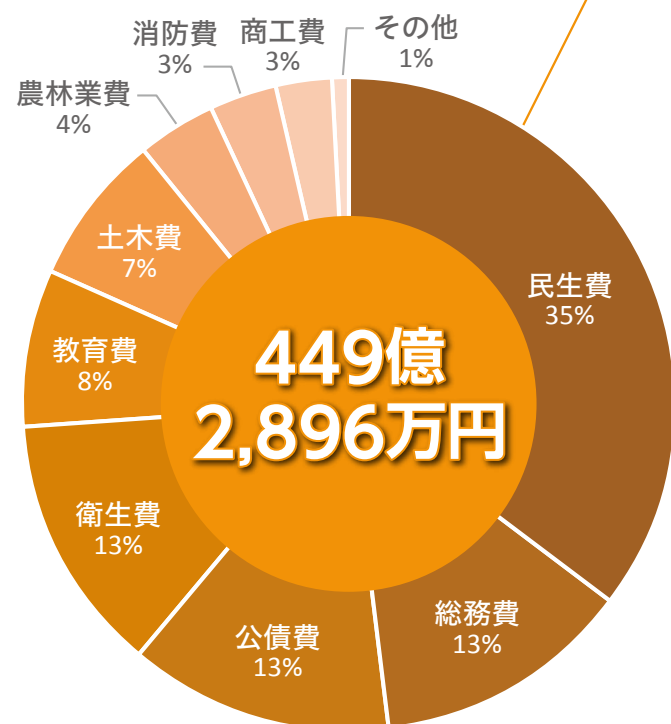
59万883円

内訳

民生費	20万9,195円	土木費	4万3,773円
総務費	7万6,072円	農林業費	2万3,468円
公債費	7万5,991円	消防費	1万9,202円
衛生費	7万5,778円	商工費	1万6,956円
教育費	4万6,315円	その他	4,133円

※市民一人あたりの計算は、令和4年4月1日時点の人口76,037人で行いました。

歳出



WITHコロナの時代を見据えて



小中学校で、一人一台のタブレット端末を使用した授業がスタートしたことにあわせ、児童生徒約6千人にそれぞれIDとパスワードを付与しました。タブレット端末とともに電子図書館を活用し、より深い学びの実現をめざします。

24時間いつでもどこからでも利用できる ふくちやま電子図書館をオープン 2万点以上とコンテンツも充実

【約3059万円】

緊急事態宣言下で図書館の休館や機能縮小を余儀なくされた経過があり、いつでも誰でも学びの機会を得られるよう、図書館の電子書籍貸出サービスを導入しました。

開始約2か月で10万回ものログインを記録するほど関心が高く、小中学校での授業でも活用しています。

福知山マラソンをオンライン開催 604人が自由な走りで参加

【約770万円】

2年連続延期となった本市の一大スポーツイベント「福知山マラソン」をオンラインイベントとして開催しました。参加者は期間中、自分のペースで好きな場所を走り、福知山駅前に設けたゲートをくぐってフィニッシュすることができるという、密を避けた形で実施。参加者の中には「コロナ禍でこういう形だからこそ初めて参加できた」というランナーもいました。



福知山駅北口に設置されたフィニッシュゲートでは、過去に福知山マラソンのゲストとして来福したオリンピックの小林祐梨子さんや川内滄輝さんがランナーを出迎えました。

コロナ禍だからこそ、できる挑戦

「#福知山城チャレンジ」では、ふるさと納税寄附金を使って、福知山城で実現したいアイデアを公募し、実施を支援。34ものアイデアが集まり、全国から2297人の投票を経て、明智光秀を主人公とした新作能「光秀」が、福知山城で上演されました。取り組みの背景には、コロナ禍を契機に福知山に来られなくても福知山と関わってもらえるよう、SNSなどでの情報発信を強化したことがあります。



コロナ禍への対策を確実にとりながら 未来に向けた取り組みを展開

令和3年度は、長期化するコロナ禍にあつて市民生活と地域経済を強力に支援。

13回もの補正予算を編成し、国や府の支援だけでなく、本市独自の支援策に臨機応変に取り組み、新型コロナウイルス対策のみの決算額は約36億8974万円となりました。

子育て世帯の感染対策に
一人3千円のクーポンを配布
利用率は97%

【約5287万円】

保育園・幼稚園・学校などでの集団生活を通じた感染拡大を防ぐため、マスクや消毒液など必要な衛生用品の購入に利用できる「子どもふくふくクーポン」を発行しました。

子ども一人あたり3000円分のクーポンで、市内の18歳以下の子どもがいる世帯のほか、福知山公立大学に在籍する大学生にも配布しました。

コロナ禍で雇止めとなった人
などを市職員として採用

【約1445万円】

新型コロナウイルス感染症拡大により解雇や雇止めとなった市民

現場隊員の感染防止対策
救急車内の感染リスク軽減

【約452万円】

新型コロナウイルス感染拡大の中でも、現場活動に携わる隊員の感染対策を行い、消防業務を維持するため、オゾンガス式除染装置を2台増設し、各署1台ずつ配備しました。

また、6台の救急車すべてに、感染を防ぐ陰圧シールドを設置しました。



ワクチン接種を
安全かつ円滑に実施

【約4億502万円】

新型コロナウイルスのワクチン接種をスムーズに実施するため、医師会、薬剤師会などの協力のもと、全庁的な体制を構築し、取り組みました。

また、接種のスケジュールや予約方法などの問い合わせに対応するコールセンターを開設しました。

を、市役所の会計年度任用職員として採用しました。
コロナ禍への対応で業務が繁忙となる部署へ配置することで、業務の円滑化を図りました。

コロナ陽性となった人へ
自宅への配食サービスを実施
832世帯を支援

【約1611万円】

新型コロナウイルス感染症の陽性者のうち自宅療養者と、濃厚接触者等として自宅待機を要請された人などに、無料で昼食夕食2食分の配食サービスを実施しました。832世帯へ、延べ2万5429食の利用がありました。

外出することなく自宅療養・健康観察に専念できるよう、不安の解消を図りました。

国や府による給付支援の
対象とならなかった
市内事業者を独自に支援

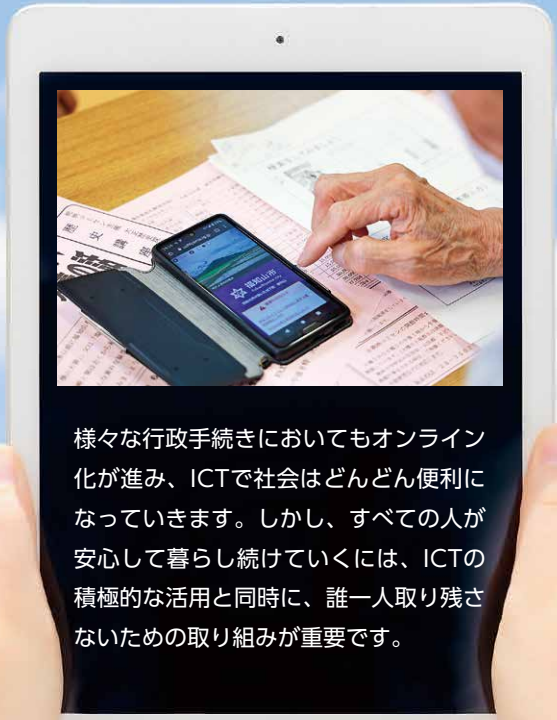
▼売上が前年または前々年同期月に
対して30%以上減少するなどの中
小企業者・個人事業主で、府の時
短要請の対象とならなかった事業
者に、本市独自の給付金を支給し
ました。

【令和3年1月から3月が対象】
件数 725件
金額 約2億7150万円
【令和3年4月から8月が対象】
件数 1033件
金額 約3億8307万円

▼令和3年9月・10月に、休業や
時短要請などで売上が減少し、協
力金の対象とならなかった、売上
が30%以上50%未満減少した中小
企業者・個人事業主に対し、本市
独自の給付金を支給しました。

件数 232件
金額 約2227万円

これらのほか、令和2年度から
引き続き、高齢者の衛生用品の購
入支援や小中学校の感染対策など
に取り組みました。



様々な行政手続きにおいてもオンライン化が進み、ICTで社会はどんどん便利になっていきます。しかし、すべての人が安心して暮らし続けていくには、ICTの積極的な活用と同時に、誰一人取り残さないための取り組みが重要です。

自治会活動、防災、消防団活動、獣害対策、農業…

誰一人取り残さない スマートシティをめざして

**ICTを活用した
地域主体の獣害対策を
モデル地区2地区で推進**

【約1362万円】

兵庫県立大学の協力を得て、モデル地区とした2地区で、ICT

**タブレット端末を活用し、
防災活動や自治会活動の
オンライン化を検証**

【合計約346万円】

モデル地区の自治会長などにタブレット端末を貸与し、様々な手続きや行政とのやりとりの電子化・オンライン化の実証実験を行いました。

また、防災活動でもタブレット端末活用を検証。自治会、消防団、市との災害発生情報の収集・連絡訓練は、タブレット端末を用いた形で実施し、操作手順や連絡体制を確認。8月の大雨時には実際に情報連携を図ることができました。さらに、地域ごとの避難のスイッチとなる浸水検知センサーを、新たに7自治会に14台設置しました。

**誰一人取り残さない
スマートシティへ
スマホ講座に200人が参加**

【約192万円】

福知山公立大学情報学部と連携し、各地域公民館10館でスマートフォン初心者向けの講座を開催。参加者のほとんどが満足または概ね満足と回答しました。



三和町川合地区では「ICT囲い」を設置しました。リアルタイムでわなの状況を確認できるようになっています。

2050年にゼロカーボンシティを実現 再エネ・省エネ化で 環境にやさしいまちづくり



令和4年3月に竣工した新しい北陵地域公民館は、全館バリアフリーに配慮し、公民館機能のほか、地域福祉、住民活動、広域避難所としても利用できる新たな地域コミュニティの拠点として整備しました。

**太陽光発電システムなど
環境への負荷を抑えた
北陵地域公民館を整備**

【約2億3927万円】

豪雨により被災した北陵地域公民館を新たに整備しました。新しい施設には太陽光発電システムを設置し、再生可能エネルギーを施設の電力として利用しています。また、蓄電池、電気自動車からの給電設備、雨水タンクなどを備え、災害への対応力を強化しています。現在、老朽化などで建替えが必要な地域公民館を順次、環境負荷を抑えた施設に改修しています。

**住宅の再エネ・省エネ化促進
45件を支援**

【約755万円】

住宅用太陽光発電設備と蓄電設備の同時設置に最大15万円を補助、また、戸建てZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（※1））の建築に、一律20万円を補助し、市民による省エネ・再エネ化を支援しています。

※1 年間に使う・つくるエネルギー量が実質ゼロの住宅

**公園や街路の照明
1866灯をLED化**

【約1465万円】

市所有の道路、都市公園にある街路灯・公園灯のほとんどをLED化し、省エネ化を図っています。また、市役所本庁舎の約2100灯などを含め、2030年までに市施設すべての照明をLED化する計画です。これにより電気使用量の低減と、二酸化炭素排出量の削減をめざしています。

**エネルギーの地産地消へ
オンサイトPPAをスタート**

たんだんエナジー発電合同会社が設置する太陽光発電設備により発電された電気を本市が使用する「公共施設でのオンサイトPPA事業（第三者所有モデル）」を市内公共施設の3か所で開始。年間約31万kWh（一般家庭の72軒分に相当）の電力を生み出し、エネルギーの地産地消への取り組みを進めました。

二酸化炭素の削減と、エネルギーにかかる費用の地域内循環にもつながります。

**再エネ由来電力への切り替えが進行中！
「再エネ100宣言 RE Action」とは**

企業、自治体、教育機関、医療機関などの団体が使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示す枠組みで、本市は、令和3年6月に参加しました。高圧で電力を受電している市公共施設のうち、既に48施設で再生可能エネルギー由来の電気への切り替えが完了しています。（実施率約67%）



**二酸化炭素排出量実質ゼロに向け
公用車を順次EV等に切り替え**

本市では、2040年までに特殊車両を除く全公用車をEV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリット車）・FCV（燃料電池車）に転換する計画を進めています。令和3年度は4台を切り替えました。市役所本庁舎で導入済みの再生可能エネルギー由来の電力を供給することで、走行時に排出する二酸化炭素がゼロになる「ゼロカーボン・ドライブ」を実現します。



右)昨年10月にオープンした足立音衛門里山ファクトリー(旧佐賀小学校)の様子。上)エエもん食事会の様子。左)新たに「ふくちやまのエエもん」に認定された5品の認定式の様子。



上)まちに変化や挑戦を起こす人を応援することをコンセプトに立ち上がったシティプロモーション企画「福知山の変」では、2人の市民と、公募で選ばれた明智光秀そっくりさんをポスターにしました。右)鬼退治絵巻をモチーフにしたアニメ動画は、TikTokなどでも配信し、話題となりました。



酒吞童子や光秀マインド
多様な資源でまちをPR
メディア掲載は829件

【約3513万円】

「明智光秀が築いたまち」から、今このまちで生きる人の「まちづくりへの挑戦心」に焦点を当て、「光秀マインド」をコンセプトにしたPRや、大江山の地域資源「鬼」を前面に押し出したプロモーション活動を展開。発表した鬼のPR動画は総再生数78万回となるなど話題となりました。

関連した取り組みでのメディア掲載は、当初目標の4倍となる829件となりました。

ふるさと納税寄附
過去最高の3・17億円

【約1億5300万円】

多様なプロモーションを通してまちの魅力を発信した結果、ふるさと納税寄附額は、前年度比1・2倍となり、寄附額・件数ともに過去最高に。

また、返礼品数は1年間で195品から305品へと大幅に増加しました。

廃校利活用が加速
新たに5施設の活用が決定

【約3568万円】

廃校施設などの活用と地域活性化を目的に取り組む「廃校Re活用プロジェクト」を実施。廃校を案内するバスツアーには22事業者が参加、ワークショップには延べ23事業者が参加しました。廃校となっている16校のうち、令和3年度には4校の民間活用と、1校の行政利用が決まりました。

また、廃校にあった備品の販売会や学校図書の譲渡会も開催し、活用を進めました。

福知山のエエもん
料理界著名人など約60人が関心

【約689万円】

福知山の食のブランド化をめざし、「ふくちやまのエエもん」認定食材などを使った食事会を大阪市で初開催。料理界の著名人らは、福知山の食に関心を寄せ、高い評価を得ました。

また、新たに5品が認定を受け、「ふくちやまのエエもん」は合計22品となりました。

住みたいまちをつなぐため

“今”をより良くする挑戦

次代の産業創造に挑戦
9つの新規事業を創出

【約681万円】

新たな産業の創造や挑戦を支援する創業塾やプログラムを初開催。22人が参加し、20人が修了。9つの事業が生まれました。クラウドファンディングを活用したテストマーケティングでは約250万円の資金調達を達成しました。

また、自社通信販売サイトの構築補助制度を新設するなど、コロナ禍の社会変化を見据え取り組み事業者の支援を行いました。

女性の挑戦を応援する
ぶち起業女子校に80人参加

【約94万円】

女性の起業や社会での活躍を応援する「男女共同参画推進事業」では、民間団体と連携した「ぶち起業女子校」を初開催。より実践的に起業を学ぶ内容に延べ80人が参加し、起業に向けた手応えをつかんでいました。

また、女性の人権や男女共同参画をテーマに延べ15回の講座を実施し、1218人が参加しました。

20年後に向けた羅針盤
「まちづくり構想 福知山」

【約636万円】

本市のまちづくりの指針となる「まちづくり構想 福知山」を今年3月に策定しました。

「誰一人取り残さず、みんなが幸せを実感できるまちにする」ことをテーマに、およそ2年かけて、市民と職員約100人がともに議論を重ね、今年度から計画をスタートしています。

三岳山や大江山の
豊かな自然と歴史を
次の1000年へ残す

【約815万円】

丹後天橋立大江山国定公園に指定されている三岳山・大江山連峰エリアの持続可能な地域振興と環境保全をめざし、これまでの実績や社会情勢の変化を踏まえ、「福知山千年の森づくり基本計画」を改訂しました。

関係者との5回の意見交換を経て、令和20年度までを計画期間として今年度からスタート。森林整備・誘客・情報発信を柱に取り組みを進めています。



上) まちづくり構想に係る市民懇談会の様子。分科会に分かれて地域の課題や未来について議論を重ねました。左) 大江山には、強羅と呼ばれる岩塊など特徴的な自然が多く残っています。



上) 「NEXT産業創造プログラム」を経て、クラウドファンディングでの資金調達で商品化を実現した皆さん。左) THE610BASE (旧中六人部小学校) で開催された「ぶち起業女子校」の様子。

健康と生きがいを感じられるまちへ

まちぐるみで健康づくり
アクティブシティ市民会議に
5団体が参加

【約651万円】

運動やスポーツなどを通して心身ともに健やかで豊かな生活を実感できる「アクティブシティ」の実現をめざし、民間団体、行政が協働して取り組む「福知山市アクティブシティ推進市民会議」を組織しました。

令和3年度は5団体などが参加し、今後官民が協力しながら健康増進に取り組んでいきます。

口のフレイル予防で介護予防
342人が歯科健診受診

【約169万円】

歯や口の衰えは、全身の衰え（フレイル）につながります。



歯科健診の様子

そこで、若い世代から後期高齢者への一体的な取り組みとして、40歳・50歳・60歳・70歳の国民健康保険被保険者と75歳以上の後期高齢者医療被保険者を対象に、無料で受診できる「歯科健診」をスタート。令和3年度は342人が受診していただきました。

官民連携でめざす
障害者雇用1000人のまち

【約163万円】

障害のある人が就労の機会を得て自分の仕事に誇りを持ち、自立

した生活を送れるよう、福祉・雇用・教育などの関係機関14団体で構成する「障害者雇用1000人のまちプロジェクト推進会議」を設置し、取り組みを進めています。障害者雇用の現状と課題を抽出するため、企業へのアンケート調査を実施したほか、国や府などと連携し開催したセミナーには10事業者が参加しました。

高齢者を日常生活圏内で
きめ細やかに支援
78人に個別支援を実施

【約59万円】

高齢者の多様な課題に対する支援のため、介護予防と保健事業を一体的に取り組んでいます。

9つの地域包括支援センターを拠点に、地域担当の専門職（保健師、栄養士、作業療法士）が高齢者への個別支援や、地域の集まりの場などでフレイル予防や健診受診を呼びかけています。

住み慣れた地域で自立した生活ができる期間の延伸、QOLの維持・向上をめざし、高齢者をきめ細かく支援しています。

をスタート。

保育業務や清掃など周辺業務の補助者・支援者雇用への補助制度、若手保育士巡回アドバイザーによる相談支援などで就労環境の改善を図っています。また、保育士養成施設に通う学生への修学資金貸付け制度など保育士確保に向け、総合的に取り組んでいます。

令和4年度にかけて、三段池公園総合体育館内に新たな子育て支援拠点を整備するなど、安心して子育てできる環境づくりを進めています。

大江地域で有償運送
「鬼タク」スタート
〆支え合い交通〆支援

【約698万円】

タクシーなどの公共交通が不在である地域（交通空白地）で、地域の支え合いで移動手段を確保する取り組みを支援しています。

令和3年度には、大江地域で有償運送「鬼タク」がスタートしました。これまでに支援した地域はこれで3地域となり、延べ2125人が利用しました。

最新の人工膝関節手術
支援ロボットを導入

【約5830万円】

市立福知山市民病院では、より安心・安全で精度の高い人工膝関節手術を実施するため、最新の人工膝関節手術支援ロボット「ROSA Knee（ロザニー）」を導入しました。



「ロザニー」システムでは、患者の膝の情報をデータとして取り込み、患者ごとに適した人工膝関節を設置できるため、術後の早期回復が期待できます。



令和3年7月に運行を開始した大江地域の有償運送「鬼タク」は、大江まちづくり協議会が主体となり、取り組まれています。

住み慣れたまちで、健康に生きていく。

福知山市では、アクティブ（活動的、能動的）で、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的な充足感が満ちている状態）な地域「アクティブシティ」をめざし、民間企業や団体と連携しながら取り組みを進めています。

大江町河守～公庄地区で整備が進む排水ポンプ施設と調節池

安心・安全に住み続けられるまちへ

大江地域の内水対策を本格化
令和5年度の効果発現へ

【約5億673万円】

内水被害が発生した大江町公庄～河守地区をモデル地区として排水ポンプや調節池の整備を進めています。

令和4年度の出水期までに毎秒1トン排水できるポンプ施設の工事を行いました。

令和5年度の出水期までにさらに2トンの排水ポンプ施設の整備と公手川の改修を進め、内水被害の軽減を図ります。

保育士の就労環境や
子育て支援拠点を整備

【3616万円】

慢性的な保育士不足への対策として、市独自の保育士確保支援策

コロナ禍にあっても 危機に対応しながら健全財政を堅持

問 財政課 (TEL 24-7035 ・ FAX 23-6537)

令和3年度の実質収支

約10.0億円の黒字

実質収支とは、歳入（1年間で市に入ったお金）から歳出（1年間で市が使ったお金）を差し引いた額から、さらに「翌年度（令和4年度）に繰り越したお金（財源）」を差し引いた額のこと。

一般会計の歳入歳出決算規模は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症関連の事業に係る予算を重点的に措置したこともあり、歳入規模では過去2番目、歳出規模では過去3番目の**大型決算**となりました。

決算収支では、市税が堅調だったことに加え、地方交付税が追加措置された影響などで一般財源が大きく増加。また、新型コロナウイルス感染症関連事業の財源として地方創生臨時交付金を最大限確保するとともに財政調整基金も活用したことで、**一般会計の実質収支は10.0億円の黒字**となりました。昭和47年度以来50年連続で黒字決算を継続しています。

令和3年度の経常収支比率

前年度から3.3ポイント改善 **88.9%**

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を表す指標です。人件費、扶助費、公債費などの経常的な経費に、地方税、地方交付税、地方譲与税などの経常的な収入がどれくらい充当されているかを比率で示しています。

令和3年度は、前年度92.2%から**3.3ポイント改善し88.9%**でした。平成29年度の97.7%から4年連続で改善しています。

令和2年度までに取り組んできた第6次行政改革の目標は92.7%以下でしたが、引き続き改善が進んでいます。令和3年度は、1市3町の合併による普通交付税の合併特例加算がなくなった最初の年度でありながらも改善できたことは、これまでの**財政構造健全化の取り組みが成果として表れている**と言えます。

令和3年度の財政健全化判断比率

すべて早期健全化基準内

地方公共団体の財政破たんを早い段階で回避するため、国は「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」を定めています。これに従い、地方公共団体は「**健全化判断比率**」として右の4指標を算定し、**市の財政が健全かどうかを判断する目安**としています。

本市は、4指標いずれも早期健全化基準内です。

指標	内容	結果	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計を中心とした赤字の、市の平均的な年間収入に対する割合	赤字なし	12.10%
連結実質赤字比率	一般会計に、特別・企業会計も含めた全会計の赤字の、市の平均的な年間収入に対する割合	赤字なし	17.10%
実質公債費比率	市の平均的な年間収入などに対する借金返済額の割合	9.9%	25.0%
将来負担比率	市の平均的な年間収入などに対する将来に負担が見込まれる負債（借金）の割合	38.5%	350.0%

令和3年度決算の詳細は、市ホームページに掲載しています。右の二次元バーコードからもご覧になれます。



令和5年度予算を編成しています。予算編成方針や予算要求状況などは随時、市のホームページで公表しています。右の二次元バーコードからご覧になれます。

